

がん患者のための多職種チームケアと地域医療連携を推進するプロジェクト

Projects to Promote Multidisciplinary Team-based Care and Regional Medical Collaboration for Cancer Patients in Japan

プロジェクトリーダー：渡邊 清高（JASCC 教育委員長、帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科）

このたび、教育委員会をはじめとするメンバーから応募したプロジェクトにつきまして、日本癌治療学会/ファイザー株式会社による公募型医学教育プロジェクト助成事業（2022-2024年）として採択いただきました。このプロジェクトは、地域におけるがん医療の環境を踏まえ、多職種によるチーム医療を推進・向上させ、地域医療連携のもとで質の高い患者ケアを実現することを目的として教育研修プログラムを開発し提示するものです。プログラムを実践することにより、がん治療とケアを全国のがん患者さんに確実に届けることで、より良いアウトカムにつなげることを目指しています。

関連部会・委員会・ワーキンググループの皆さま、そして JASCC 会員の皆さまにおかれましてはぜひこのプロジェクトにつきましてご指導ご支援いただきたく、本稿にて活動の概要と目指すゴールについてご紹介させていただきます。JASCC ウェブサイトにおいて、教育委員会や広報・渉外委員会のご協力をいただき関連情報をご案内する予定です。

1. プロジェクトの目的の概略：がん患者のための多職種チームケアはなぜ必要か？

がん患者さんとそのご家族が抱えるさまざまな苦痛、悩みおよび負担に応じて、安全かつ安心して質の高いがん医療を提供するためには、多職種によるチームケアの推進が必要です。がん医療の充実に向け、厚生労働省はこれまで都道府県と連携し、がん診療連携拠点病院を中心に、多職種によるチーム医療を実施するための体制を整備してきました。2018年に策定された「がん対策推進基本計画」では、がん患者さんが入院しているときや、通院しながら在宅で療養生活を送っているときなど、それぞれの状況において必要なサポートを受けられるようなチーム医療の体制を強化することを目指しています。

診断と治療の進歩により、生存期間は年々改善しており、QOLの維持と向上がより重視されるようになりつつあります。こうした中で、現在必要性が高いのは、“病院外の”多職種連携といえます。がん治療は、治療を担当する専門病院の医師を中心として行わ

れることが多かったですが、近年では、がん患者さんの個別の状態に合わせて、さまざまな専門の医療関連職種が連携し合いながら、治療や支援を進めていく“チーム医療”が広がってきています。これは、がん治療の成績の改善および、がん治療に伴う副作用に対して効果的な支持医療・サポータティブケアが開発され、治療の効果と安全性を高めることができることになったことによります。進歩したがん治療およびケアの恩恵を確実にがん患者さんに届けるためには、診断や治療、ケアについて、多職種からなるチームが、それぞれ専門の知見に基づいて評価した上で方針を検討することが求められます。がん診療連携拠点病院ではカンファレンス（カンサーボード）によって、こうしたチームケアを実現しています。患者中心のケアにおいては、患者さんがどこにいるか（病院か、自宅か、施設か）、がんのどの段階であるか（疑われている時期か、治療前か、治療中か、治療後か、フォローアップ中か、進行期か、再発か、終末期が近いのか、など）によって、連続的かつ切れ目のない医療とケアが提供されることが、患者さんご家族の安心につながります。その意味で、がん治療を行う病院内でのチーム医療を起点として地域の医療従事者に向けてチームケアの充実に向けて繋がりをもつこと、これにより専門的ながん医療やケアを地域におけるチームケアに融合することが求められます。

「社会連携に基づくがん対策・がん患者支援」は、がん対策推進基本計画の重要施策のひとつであり、同計画や同計画策定に向けた議論において1) がん診療連携拠点病院(以下、がん拠点病院)以外の医療機関・在宅医療などでの医療・ケアの実態はさまざまであり、2) がんに関する情報提供サービスやがん相談支援センターなどの相談センターで把握する在宅の医療・緩和ケア・療養・支持医療の情報は限られ、3) 地域ごとの体制と情報整備の実態は多様であり、継続的に活用可能な情報共有方法の策定と連携体制の構築が求められています。

がんを専門とする医療従事者だけでなく、総合医や診療所の医師、患者さんのケアに関わる看護師・薬剤師をはじめとして地域の医療従事者が、がんという病気を理解し、治療とケアに関する知識と技能をアップデートすることが求められます。

2. プロジェクトの目的とゴール：多職種によるチーム医療と地域医療連携の推進はがん患者の Quality of Life を向上するか？

本プロジェクトは、地域におけるがん医療の環境を踏まえ、チーム医療を推進・向上させ、地域医療連携のもとで質の高い患者ケアを実現することを目的として教育研修プロ

グラムを開発し提示することを目指します。これによるゴールは、がん治療とケアを患者さんに確実に届けることで、より良いアウトカムにつなげることです。

このプロジェクトは、医療および療養環境の異なる地域の体制に応じた、がん医療や通院・在宅ケアにおける現状と課題を把握し、がん拠点病院・地域医療機関・在宅医療・ケア施設など、関連機関に所属する医療従事者との協力および多様な専門性を有する研究者による議論と実践に基づき、幅広いがん医療とケアの領域において、具体的で持続可能な地域医療連携に関する環境整備を推進する教育研修プログラムを作成し提案することを目的としています。

3. プロジェクトのデザインと手法：質の高い患者ケアを実現するためのプラクティス・ギャップに対する包括的アプローチ

本プロジェクトは、3つの要素（教育コンテンツ開発、研修プログラムの実践と評価、プログラムの有効性の検証と普及）から構成しています。要素ごとにワーキンググループ（WG）を組織し、議論の過程、新型コロナウイルス感染症や自然災害などの保健衛生の動向、がん対策推進協議会などでの議論を踏まえ、マイルストーンの追加や修正を随時行っていきます。

1) 教育コンテンツ開発：医療者向けのがんに関する基礎知識、治療・ケアのアップデート、最近のがん医療およびサバイバーシップケアを網羅した教育コンテンツを作成します。コンテンツはテキスト・動画・テスト、関連情報などにて構成し、「JASCC がん支持医療テキストブック サポートケアとサバイバーシップ（2022 年前半刊行予定）」をはじめとして、がん支持医療、サバイバーシップケアに関する信頼できる情報源をもとに、科学的根拠に基づき、教育効果が期待できるものを開発します。

2) 研修プログラムの実践と評価：効果的な医療従事者向け教育プログラムの確立
研修プログラムの技法は、イベント（オンラインあるいは集合型の教育研修会・セミナー）、サテライトシンポジウム、ワークショップ、Eラーニング、テキストブックなどを想定します。プログラムの基本構成は、目的や対象とする医療従事者、専門性、設備、時間、開催形式（集合型・オンライン・ハイブリッドなど）などによって、柔軟に変更することとしています。

研修プログラムを実施する地域は、公募形式を含めて全国各地で開催することを想定し

ています。プログラムごとに、アウトカムを設定し、達成状況について振り返りのアンケート（ウェブあるいは質問紙）により評価する。前後で調査を行い、有効性、普及可能性などの検証を行うことを計画しています。

3) プログラムの有効性の検証と普及：質の高いチームケアと連携体制構築に向けた提言へ

教育コンテンツ、研修プログラムの評価結果を取りまとめ検証を行うとともに、医療従事者向けにプログラムの普及に向けた提言をまとめることを計画しています。地域に根ざした患者さんご家族を支える仕組みづくりをもとに、がん治療・サポーターケア・サバイバーケアを含む情報共有を推進させる教育コンテンツ・研修プログラムの提案を行い、質の高いチームケアと連携体制構築に向けて、報告書は冊子やウェブサイトの形式にてがん医療やがん対策に関わる主要な関係者にご提供する予定です。